７１回生　　進路通信

スタートライン

発行日　平成３０年　１月１２日
第　４５　号

１５日（月）県内私立高校願書下書きです。

１５日の放課後、各受験校に別れて、願書の下書きをして、持って帰ります。帰宅後、机に向かって落ち着いて清書して下さい。保護者の欄があるところは、保護者に書いて貰って下さい。高校によって、様式がまちまちですので、要項や書き方の要領などをよく確認してから記入しましょう。印鑑がいるところは、忘れないようにしましょう。

受験料は銀行振り込みです。願書を直接銀行に持って行く学校や、振り込んだ領収書を添付する学校などあります。要項に書いてある指示に従って振り込みをして下さい。

受験料の振り込みは１６日（火）・１７日（水）・１８日（木）の３日間でお願いします。（お家の人に必ず言っておいて下さい）願書の回収は１８日（木）・１９日（金）の朝までです。提出日を厳守して下さい。

受験日当日に気をつけたいこと

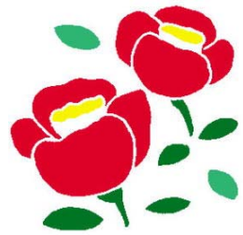
前号（４４号）で受験に向けて前日までの準備と心構え、前日の準備等についてお知らせしました。昨日は面接のＤＶＤを見て、受験に向けての服装など確認しましたね。今回は受験当日に気をつけたいことをお知らせします。よく読んで万全の状態で受験に望めるようにしましょう。

1　早めに起床し、用便をすませて、服装、持ち物（特に受験票）をもう一度点検します。また、必ず、朝食を食べること。
2　集合時間に遅れないように。電車でも天候や事故等によって運転を見合わせる場合があります。十分に余裕を持って行動するようにしよう。
3　急病等で受験にいけなくなった時は、衣川中学校（**０９０－６８７２－１５３０または　０９０－６８７２－１５３８**）に連絡する。
なお、体調が悪い場合は、保健室受験等、高校側で配慮してもらえることがあります。その場合は、引率の先生か、高校の先生に早めに申し出て下さい。万一の場合、保護者の同伴をお願いすることがあります。（試験を受けないと合格しません。）
4　忘れ物をした場合は、受験校の先生に申し出て、指示を受けるようにして下さい。あわてて取りに帰ったり、自分勝手な判断で行動しないようにしよう。
5　受験会場についたら、掲示物に注意しよう。受験についての注意事項や連絡事項が書いてあります。大切なことはメモをとって確認しましょう。
6　受験場所での集合前には、トイレへ行っておこう。
（気持ちが落ち着きます。）
7　受験場で困ったことができた時は、受験校の先生に申し出て、指示を受けて下さい。
8　出発から帰宅までが試験です。気持ちを引き締め、トラブルを起こしたり、思わぬ事故に遭わないように、十分に注意して下さい。
9　受験票は合格発表時や受験者集合時にも必要です。なくさないようにして下さい。

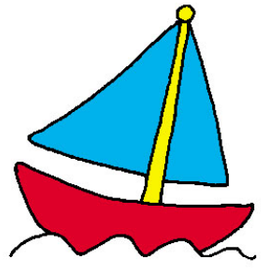
受験は、誰もが緊張するものです。自分だけではありません。緊張感を少しでも和らげるためにも、入試本番までの残りの時間を有効に使いましょう。今までやってきたことを自信にして、自分の力が最大限に発揮できるよう、今から心構えも含め、準備をしっかりしていきましょう。

学習ノート終了

２７冊目	１月１０日	１組	男子	
２６冊目	１月１０日	１組	男子	
２２冊目	１月１１日	１組	女子	
２１冊目	１月１０日	１組	女子	
１０冊目	１月１０日	１組	女子	
１５冊目	１月　９日	３組	男子	
	１月１１日	３組	女子	
１４冊目	１月　９日	３組	女子	
１２冊目	１月１１日	４組	女子	
１１冊目	１月　９日	３組	女子	
	１月１１日	４組	女子	男子
	１月１２日	１組	女子	
１０冊目	１月１１日	４組	女子	
９冊目	１月　９日	３組	女子	
	１月１０日	３組	女子	女子
８冊目	１月１０日	３組	女子	
７冊目	１月　９日	３組	女子	
６冊目	１月１１日	１組	男子	女子
	１月１２日	１組	女子	
５冊目	１月１０日	１組	男子	
		３組	女子	
４冊目	１月１０日	１組	女子	
	１月１１日	４組	男子	



「夢を目標に変えて、チャレンジすることのすばらしさを知ってしまったんです」。ヨットによる２度目のの単独無寄港世界一周を成し遂げた、堀江謙一さんは、冒険航海に挑み続ける理由をこう語りました。

大海原のような清々しい人柄。前回の世界一周との違いを問うと「体力的なハンディは感じません。でもこれまで見えなかったものが見えてきました」と。　かつては嵐に見舞われ、船がひっくり返ったことも。幾多の航海を通して、自然や人間、そして自分自身について学んだ堀江さん。「失敗は財産」と力を込めて語りました。

失敗を恐れてはいけません。しかし同じ失敗は二度と繰り返さないことが大事なのです。と堀江さんはおっしゃいました。「大胆」かつ「細心」。前者だけなら無謀、後者だけなら臆病にもなりかねません。両方兼ね備えてこそ、未聞の偉業は可能となのです。何事もやってみなければわかりません。思い切ってぶつかってこそ、自分の本当の力がわかります。全力を出せばこそ、おのずと次への課題と目標が明確になるのです。自分の限界を破る喜びは、なにものにも替え難いものです。